

ナガミヒナゲシの特徴について

ナガミヒナゲシは、「み春野」周辺にも繁殖しており見た目は美しいですが、毒性やアレロパシー活性を持ち、繁殖力が強い品種です。庭で見つけた場合など、茎や葉を傷つけると黄色い乳液が出てきます。この乳液に触れるとかぶれたり腫れたりすることがあります。触れる際は手袋を着用することが推奨されます。

1 特徴

ナガミヒナゲシ（学名：Papaver dubium）は地中海沿岸原産の一年草で、日本各地で繁殖しています。

- (1) 草
20～60cm 程度
- (2) 花の色
紅色またはオレンジ色
- (3) 開花時期
4月～6月
- (4) 生育環境
日当たりの良い場所を好み、荒地や道路脇、側溝の隙間などにも生育
- (5) 繁殖力
1個体に約100個の果実をつけ、1つの果実には約1,600粒の種子が含まれるため、爆発的に広がる恐れがある



2 特定外来生物の指定有無

特定外来生物には指定されていません。

一方、アレロパシー効果（他の植物の生育を阻害する成分を放出する）を持つため、生態系への影響が懸念されています。増えすぎると在来植物の生育を妨げる可能性があります。

3 麻薬成分の有無

麻薬成分（モルヒネなど）を含まないとされています。

一方、茎や葉を傷つけると黄色い乳液が出てきます。この乳液には **アルカロイド** が含まれており、皮膚に触れるとかぶれたり腫れたりすることがあるため、駆除の際は手袋を着用することが推奨されます。

4 正しい駆除方法

繁殖力が非常に強いため、適切な方法で駆除することが重要です。

- (1) 駆除の時期
実がついていない冬の時期に駆除するのが理想的です。秋に発芽し、冬には背の低い草になるため、地面近くに放射線状に生えているロゼット状の葉を目印にすると良いでしょう。
- (2) 駆除の手順
 - ・軍手またはゴム手袋を着用し、素手で触らないようにする。
 - ・根から丁寧に引き抜く（根を残すと再び生えてくる可能性がある）。
 - ・ゴミ袋に集める（未熟な種子にも発芽力があるため、慎重に扱う）。
 - ・「燃えるゴミ」として処分する。
- (3) 注意点
 - ・除草機やカマは使用しない（種が飛び散る可能性があるため）。
 - ・手袋を必ず着用する（アルカロイドによる皮膚炎を防ぐため）。
 - ・種がこぼれないように慎重に扱う（新聞紙に包んでゴミ袋に入れると安心）。



農環研ニュース No. 90 2011.3
研究トピックス春に気をつける外来植物：ながみひなげし
生物多様性研究領域 藤井 義晴